

世界が進むチカラになる。



景気ウォッチャー調査 (東海地区:2024年3月)

2024年4月8日

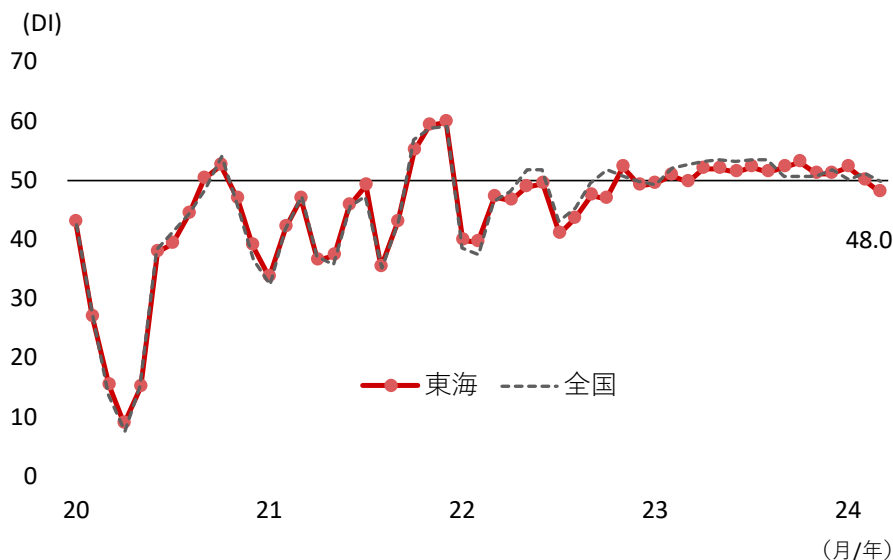
調査部 主任研究員 塚田 裕昭

2024年3月の動き(東海地区)

4月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の3月の

- 現状判断DI(季節調整値)は、前月差2.0ポイント低下の48.0となった。
- 先行き判断DI(季節調整値)は、前月差0.1ポイント低下の50.9となった。
- 景況感の持ち直しの動きに一服感がみられる。先行きについては、賃上げの効果を期待しつつも、物価上昇の悪影響も懸念されており、現状維持との見方も多いが、総じて緩やかな持ち直しが見込まれている。

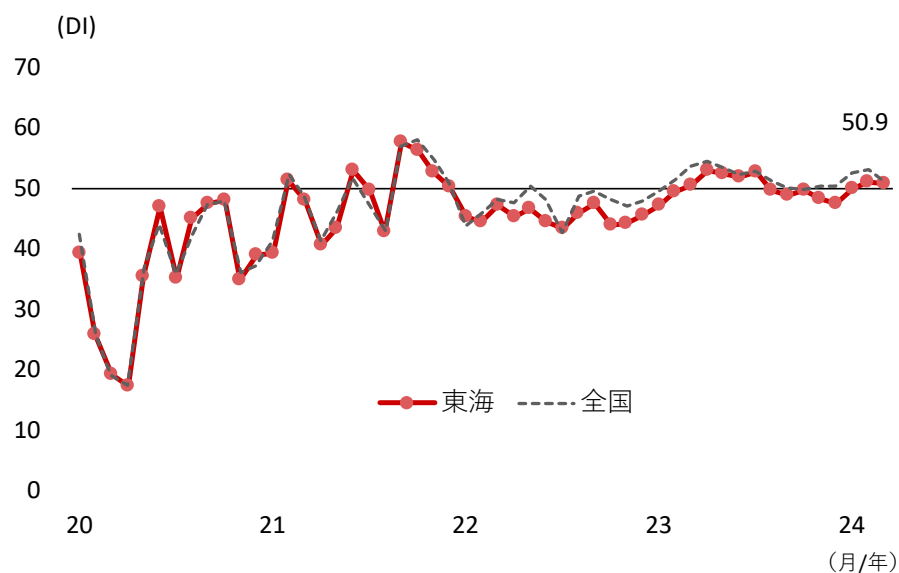
現状判断DI(季節調整値)



(全国の動き)

- 現状判断DI(季節調整値)は、前月差1.5ポイント低下の49.8となった。
- 先行き判断DI(季節調整値)は、前月差1.8ポイント低下の51.2となった。
- 景気は、緩やかな回復基調が続いているものの、一服感がみられる。また、令和6年能登半島地震の影響もみられる。先行きについては、価格上昇の影響等を懸念しつつも、緩やかな回復が続くとみている。

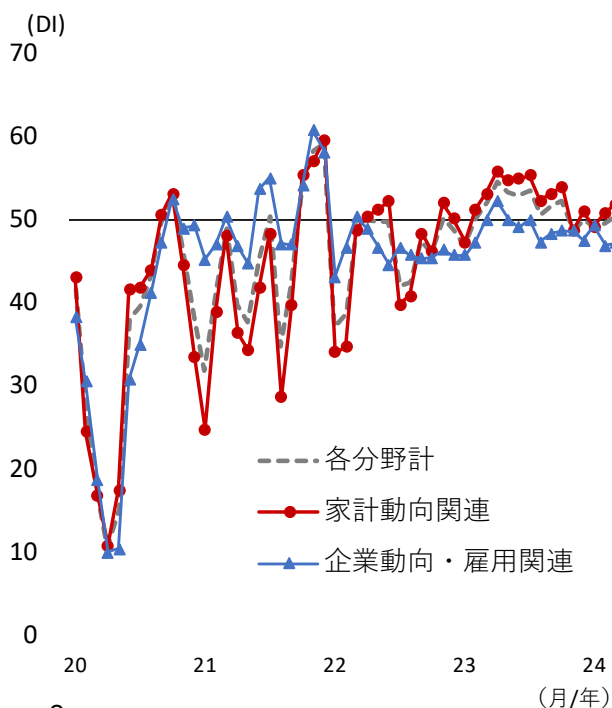
先行き判断DI(季節調整値)



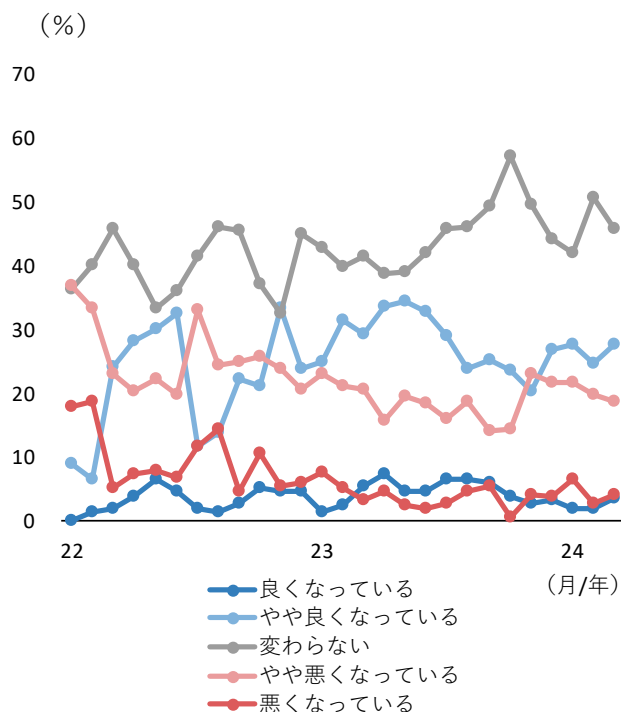
景気の現状判断(3カ月前との比較:原数値)

- 家計動向関連DIは横ばいを示す50を2カ月連続で上回り、企業動向・雇用関連DIは8カ月連続で下回った。
- 家計動向関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)が上昇、「変わらない」が低下、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)が小幅上昇した。
- 企業動向・雇用関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)が低下、「変わらない」が上昇、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)は低下した。

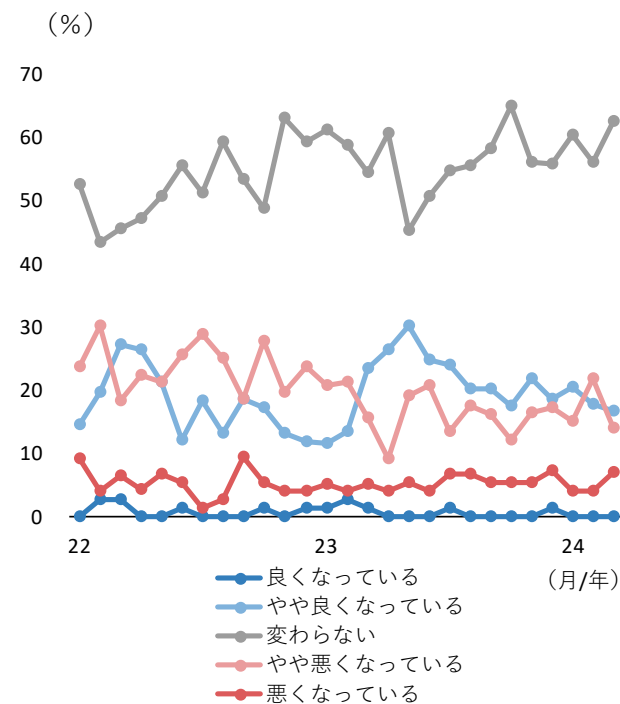
現状判断DI(原数値)



回答者構成比(家計動向関連)



回答者構成比(企業動向・雇用関連)



現状判断理由の概要

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】 売れ行き好調との声もあるが、価格上昇が販売点数の伸び悩みにつながっている面もあるようだ。

◎	商店街（代表者）	・消費者の購買意欲は、新型コロナウイルス感染症発生前と同程度に戻っている。飲食店は好調で、旅行する人も多い。
○	百貨店（販売担当）	・3月に入り客の購入マインドが上昇している。富裕層やインバウンドの需要も増加し、高額品の稼働が高まった。
□	コンビニ（エリア担当）	・来客数が伸びており、例年と比べ単価の高い商品がよく売れている。一方で、全体的に商品の価格が高騰していることもあり、販売点数は伸び悩んでいる。
▲	家電量販店（フランチャイズ経営者）	・来客数が前年割れしている。特に大型家電を購入する客が減っているため、売上もかなり厳しい。
▲	乗用車販売店（営業担当）	・繁忙期であるはずの3月なのに、コロナ禍の前年までと比べて来客数が変わらない。商品に目新しいトピックがないこともあるが、価格も上昇しており、売上の見込みが立たない。

【企業動向・雇用関連】 原価上昇による利益減、受注の伸び悩み、求人の減少などが指摘されている。

□	金属製品製造業（従業員）	・仕事量はそれなりに見込めるものの、諸経費や部材価格の高騰が止まらず、利益圧迫がまだ続く。
□	電気機械器具製造業（企画担当）	・受注状況を見ると、アフターコロナの回復基調が一段落して、安定した状態にある。
□	職業安定所（職員）	・前年同月との比較で新規求人数の減少幅は拡大している。株価上昇が雇用に与える好影響はみられない。
▲	金属製品製造業（経営者）	・受注量が減少している。原材料価格は比較的高い水準が続いており、利益が出にくい状況が続いている。
▲	職業安定所（所長）	・人手不足という声がある一方で、新規求人数は減少している。物価高などにより収益が上がらず、また、中国経済の減速により仕事が減っているなど景気が良くなっている実感がないという声がある。そのため、新規雇用には慎重な様子である。

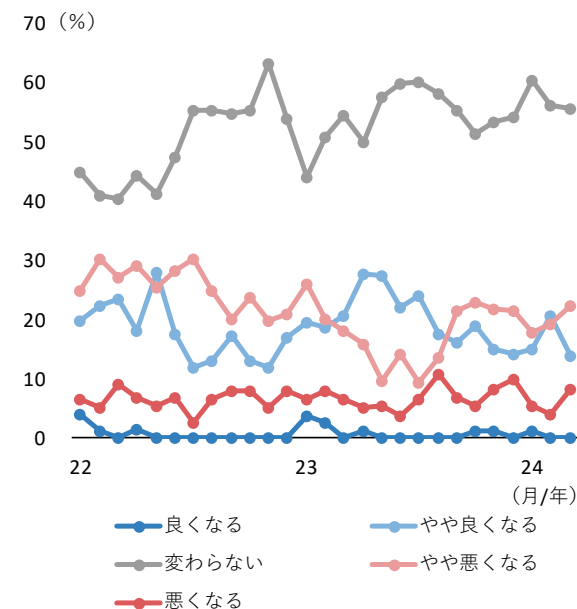
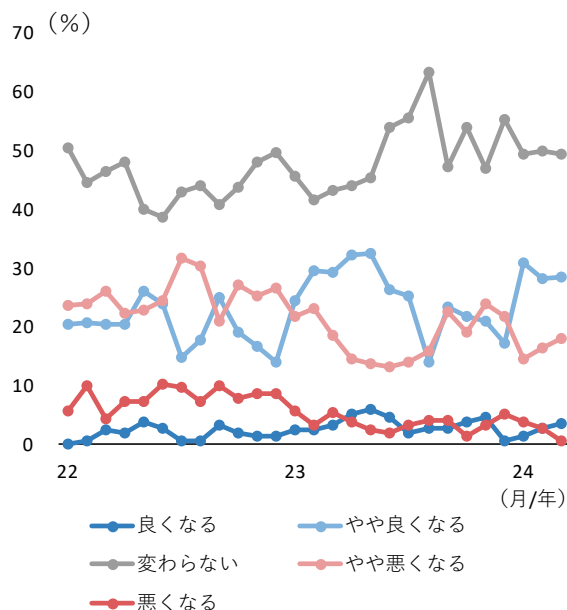
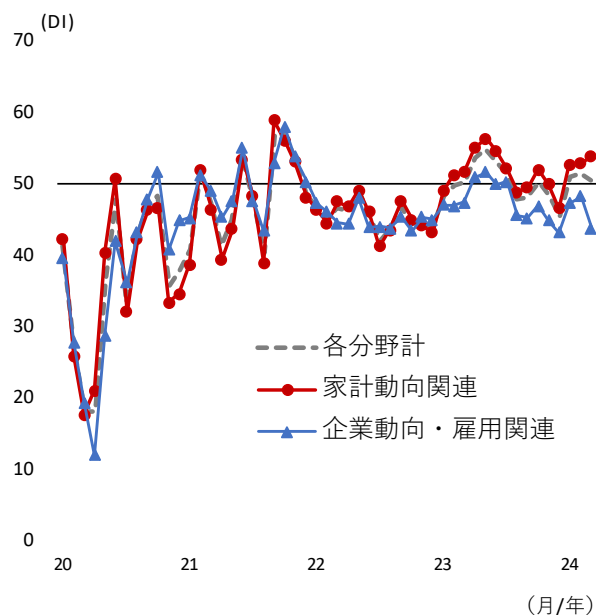
景気の先行き判断(2~3ヵ月先の見通し:原数値)

- 家計動向関連DIは、横ばいを示す50を上回り、企業動向・雇用関連DIは50を下回る状態が続いている。
- 家計動向関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)が上昇、「変わらない」、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)は低下した。
- 企業動向・雇用関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)、「変わらない」が低下、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)が上昇した。

先行き判断DI(原数値)

回答者構成比(家計動向関連)

回答者構成比(企業動向・雇用関連)



先行き判断理由の概要

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】 賃上げによる消費拡大に期待する声が多いが、拡がりが限定的との懸念もある。

○	百貨店 (総務担当)	・企業の賃上げ促進が前年以上に大きくなることや減税政策もあり、4月以降は節約志向から少しずつ消費に明るさがみえてくると予想する。インバウンドも引き続き好調で、売上を底上げする要因となっている。アフターコロナ初の本格的なゴールデンウィークとなり、その需要にも期待できる。
○	スーパー (営業企画)	・大手企業の春闘での満額回答を受けて、消費マインドの向上が期待できる。
□	一般小売店 [生花] (経営者)	・給料が上がっている人ばかりではないため、生活必需品以外の消費を控える人もいる。身の回りの景気は、今しばらくこのままとみる。
□	乗用車販売店 (経営者)	・株価高騰や賃上げのプラス要素も、恩恵を受ける範囲は限られている。物価上昇などのマイナス要素も考えると、全体的には横ばいの推移とみる。
▲	コンビニ (店長)	・客の購買力が落ちてきている。食品の度重なる値上げが効いていないのではないか。ガス、電気料金の補助がなくなったら、一層食費に掛ける金が減ってくるようにみえる。

【企業動向・雇用関連】 足下の停滞感により、現状維持を見込む声が増えている。

□	窯業・土石製品製造業 (社員)	・1年半続いた業界の低迷状態から抜け出した感はあるが、その後の伸びは余りみられず、しばらくは現状維持とみる。
□	電気機械器具製造業 (経営者)	・ある程度の価格転嫁はできているが、この数か月受注量、生産量共に横ばいであるため、今後も変動はなく景気は変わらないものと見込む。
□	人材派遣会社 (営業担当)	・求職者数が増加せず、求人内容とのミスマッチが多く、採用者数は横ばいから減少傾向と予測する。
▲	輸送業 (従業員)	・運送業界では4月より2024年問題が始まる。今までと同じ体制では今までと同じ仕事量はこなせない。かといって人員や設備は簡単には増やせず、売上単価が上がったとしても頭が痛い。
▲	不動産業 (開発担当)	・これ以上、工事費上昇の流れになると、収益悪化につながる。首都圏及び関西圏での工事費上昇の流れは変わっていない。

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー